

# 派遣再開！東日本大震災の被災地へ

日遊協は東日本大震災被災地へのボランティア隊派遣を3月から再開した。第1陣の東京都・関東支部隊8人は3月26日～28日の3日間、宮城県気仙沼市で水揚げされた新鮮なワカメを保存するための二連の作業に加わった。

昨年、日遊協は宮城県石巻市と岩手県陸前高田市へ、5月から11月まで全国7支部から18班189人を派遣し、おもに瓦礫、汚泥等の撤去作業を行った。今年は宮城県南三陸町を中心に、①社会貢献共同体ユナイテッド・アースを通じた活動 ②南三陸町災害ボランティアセンターを通じた活動 ③の2本立てで、漁業など地元産業の支援、老人ホームや託児施設など福祉面の支援をしていくことを予定している。

## 東京都・関東支部ボランティア隊第1陣

# 大量のワカメと格闘した



ユナイテッド・アースと一緒に工場の前で

▽日時 3月26日～3月28日

▽場所 宮城県気仙沼市

▽隊員 隊長・白石良二(株)千歳観光)、副隊長・沖直人(株)デジタルハーツ)、目原公哉(株)ジャパンセットアップサービス)、佐藤聖子(ゲンダイエージェンシー(株)、船渡川紀子、山下香菜(株)千歳観光)、千葉茂、中山英明(日遊協本部事務局)

## 女性3人含め気仙沼へ

2、4月は三陸地方のワカメの旬。ボランティア隊は当初、南三



陸町の漁協でワカメの保存作業を手伝う予定だったが、ラインの機械が故障したため急遽、北隣の気仙沼市に行き、大浦地区の海岸にあるワカメ、昆布、メカブ等の養殖・生産・販売企業の工場と同じ作業をすることに変更した。今回のメンバーは8人のうち3人は女性。作業をコーディネートしたユナイテッド・アースからも女性2人を含む4人が加わった。トラックで到着したワカメを78



度の熱湯に投げ込み、すぐに冷却し、塩でまぶす。まぶしたワカメを大きな網にまとめ、大きな木箱に詰め込んで3tの重石を乗せて1日かけて脱水する。脱水後のワカメを18kgの目分量でカゴに小分けし、ビニール袋に入れて木枠に詰め込む——という作業だった。熱湯による煮出し以外はメンバーの誰かが体験した。トラックからの荷下ろし作業や、25kg入り塩袋を抱えて塩をまぶす作業は男性

(右上) 足で踏んでワカメを均等にならす  
(下) トラックからワカメの荷下ろし



専科の力仕事。脱水のための重石を乗せる前に木箱の中のワカメを隅々まで均等に調整しなくてはならないが、ヌルヌルと不安定なワカメの上で足踏みを続けて均等化させていると、雨具を着ていたせいもあって10分経たないうちに汗だくとなる。脱水後のワカメは網の中で固まりになっており、カゴに小分けする前にほぐすのが一苦

勞。袋詰め過程はおもに女性が担当したが、最後に木枠に無理矢理詰める作業にも力が必要だ。作業を続けるうちにある程度のコツがわかり、脱水後の小分けから袋詰めまでのプロセスはチームワークでスムーズに運んだ。外気はまだ冷たかったが、ハードな仕事で全員が汗のかき通しだった。三陸地方の漁業は、震災の影響

## 痛いとか、疲れたとか 笑い飛ばしあいながら

ケンダイエージェンシー 佐藤聖子

「静かにね。静かにやってくればいいからね」と穏やかに笑って、ワカメ加工工場のおじさんが素人の私たちに話しかける。

「静かに」って？ ああそうか、あわてないで、がんばりすぎないで、ゆっくりゆっくり注意しながら目の前の作業をやって、という意味なんだな。白石隊長以下メンバー8名は、やる気満々でポランテシアに臨んでいるので、どうしても前のめりになり勝ち。そうしたポランテシアをたくさん見てきた従業員の皆さんは、終了時刻までちゃんと体力が持つように賢明な忠告をくれているのだ。

「静かに」って、浜の男たちが口にする、ゆったりとした良い言葉の響きだなあ、と思う。

こうした言葉を味わいながら、2日間の体力勝負的な作業を、なんとか無事に終えることができた。足腰が痛いとか疲れたとかを笑い飛ばしあいながら進めていくことができたのも楽しい時間だった。

途中で見た絶望的な風景も、気仙沼の、いや宮城の、そう、東北の人たちはきつと「静かに」復興させていくのではないだろうか。そして私たちはそうした方たちの気持ちに沿って、少しだけ、できることをお手伝いしていけたらいいのだろうな。

もあって人手不足に悩んでいる。責任者らしい男性に、「ポランテシアが短期間だけで申し訳ない」と気にしたら、「いや、わざわざ東京から来てくれただけでありがたいんだよ」となぐさめられた。気仙沼市に行く途中に見た南三陸町は津波で破壊しつくされ、コンクリートの土台と鉄骨が遙か遠くまで広がるばかりで何もなかった。気仙沼市内でも漁船や車の残骸がまだそこかしこに残っていた。復興には途方もない時間がかかるように実感した。

(中山英明)

## 3・11終日消灯を実施

東日本大震災発生から1年経った3月11日、全日遊連、日遊協、同友会、余暇進、PCSAのホール関連5団体に所属する全国のホールは、震災で亡くなられた方々を追悼し、被災地の復興を祈念して、ネオン・看板照明等の終日消灯を行った。

日遊協では事前にホール会員に向けて呼びかけが行われ、実施ホールはお客様に消灯の趣旨を理解していただくために、5団体連名のポスターを店頭に掲示した。ポ

スターでは、「戦後最大の震災で亡くなられた方を悼み、被災地の復興を願う気持ちは、皆様共通のもの」と認識しています。また、この1年は業界にとつても、被災された店舗はもとより、パチンコバツシング・節電対策等の試練の年でもありました。皆様にはこの提案の趣旨を十分にご理解いただき、積極的にご賛同いただきますようお願い申し上げます」と訴えた。

ふだんの明るいピーアーク銀座店(左)も3月11日は消灯で暗く(右)、消灯のお知らせの看板が置かれている







九州支部第1陣。鍋やタッパーで持ち帰る人も



中部支部第1陣。保健センターの隅々まで、丁寧に掃除した



中部支部第2陣。民家の床下に積もった泥を排除するのに汗びっしょり



北海道支部第1陣。ボランティアセンターで用具の受け取り



北海道支部第2陣。運び出しにも細心の注意



東京都・関東支部第2陣。スコップを使い土壌に結める作業に汗を流す



中国・四国支部第1陣。なかなかかはかどらないうが、川からのガレキ撤去にがんばる

# 悲惨な現場いまも胸に

## 昨年18回派遣、今年は南三陸町へ

2011.3.11の東日本大震災から1年になります。私たち日遊協ボランティア隊が被災地に入ったのは3月22日でした。仙台までの高速道路は一般車の通行が許されず、NP〇法人「難民を助ける会」の助言を受けて被災地へ救援物資を運ぶ車両として高速道路の通行書の発行をお手伝いしていただきました。ワゴン車いっぱいには救援物資を積んで仙台に向かいました。

仙台の街中は案外、建物の崩壊などの被害は少なかったのですが、ライフラインの電気、水道が止まっている状況が大きな痛手でした。翌日には、ほとんど通信社の友道学さんにも同行していただき、仙台の若林区の荒浜地区などに入っていくと状況は一変しました。テレビで見える映像と違い現実とはとても口では言い表せない

い惨状でした。一瞬にしてすべての財産と命を奪い去った光景に、辛くいたたまれない感情がこみ上げてきたのを今でも覚えています。その後東京に戻り、日遊協・深谷友尋会長に現状を報告、救援物資の希望品目やこれからのボランティア隊の派遣等を打ち合わせしました。深谷会長も精力的に現地入りし自分の目で被災現場を見てボランティアの必要性和業界も日遊協も何かできるかを考えてくれました。その思いはその後の業界の支援の在り方に大きく寄与したと思います。

私たちボランティア隊の本格的活動は4月に入ってからです。日遊協でボランティアを募るとたくさんの方の応募がありました。日遊協は石巻災害ボランティアセンターなどを拠点に18回189名(延べ406人)が現地入りし地域住民の要望に応えました。

# 大震災 せた1年

総隊長・白石良二

中部支部第3陣。側溝の清掃に汗を流す



近畿支部第1陣。石巻ボランティアセンターで、作業に出かける前のメンバー







九州支部第2陣。作業現場に22人の大部隊が勢ぞろい



東京都・関東支部第7陣。ガレキ撤去は、そう簡単には運ばない作業だった



東京都・関東支部第1陣。タバコで一息入れる白石隊長



中国・四国支部第2陣。大量のかきがらを紐に通す仕事を黙々と続ける



東京都・関東支部第6陣。お婆ちゃんを囲んで、みんな笑顔がすがすがしい



北海道支部第3陣。続くガレキ撤去。その中に悪いのある生活用品も



東京都・関東支部第5陣。炎暑の中、ガレキの撤去はきつい作業となった。緑の山々も目に入らない



東京都・関東支部第4陣。ガレキ撤去に軽トラックで向かうメンバー。道路がまだ冠水している



東京都・関東支部第3陣。床下からの泥出しはきつい作業となった

# 「絆」と口に 出すのなら

昨年11月には新たな拠点を視察するため南三陸町を見て回りました。自分たちがボランティアで入った石巻の状況も気にかけていたので海岸沿岸部も見ました。ガレキは片付いていましたがそのガレキの山があらこちらに山積みになっていて光景が目に入ります。南三陸町も同じです。ガレキの処理が進んでいません。石巻のガレキの量は普段のゴミの1000分だそう。なぜ、処理が思うように進まないのか。他県の受け入れが進んでいない現状があります。

テレビでは「復興」と言葉にしていますが現地ではガレキの山を見て復興などと言えるでしょうか。ガレキの山を撤去しなければ気持ちも晴れないのではないのでしょうか。

# 東日本 人々に心寄

## 日遊協ボランティア派遣隊

国民みんなが「絆」を唱えるならもつと被災地に入りその現状を目にすべきでしょう。宮城県と岩手県のガレキを受け入れている県は東北の青森、秋田、山形、そして東京都だけです。悲しいです。

私たち日遊協ボランティア隊は今年、3月26日より南三陸町に入りました。また、たくさんの人々との出会いがあるでしょう。1年が過ぎても心の傷はなかなか癒せません。心の傷を癒せるのは人とのふれあい、と思っています。

私たちはこれからも地域住民に寄り添ってボランティア活動をしていきます。そして被災された人々が必ず口にする言葉があります。この震災をこの町のこと、東北のことを「忘れないでね」と。

現地では1年たったこれからがもっと、外の人の「力」が必要になります。協力をお願いします。



# 専門委員会再編へ着手

## 新「重点推進事項」を承認

2012年度(平成24年度)事業計画と重点推進事項(別掲)が承認された。重点推進事項は ①パチンコ・パチスロ新時代にふさわしいビジネスモデルの創造等、安心安全な遊技環境の整備 ②人づくり活動の推進 ③環境問題への積極的対応 ④社会貢献活動の推進と社会的評価を得るための効果的な広報活動の推進 ⑤組織体制の整備と活性化 ⑥遊技産業の各団体との連携強化——の6項目で、前年度と大きな変更はなく、若干の削除・入替が行われた。

2074万円増)としている。事業活動収入全体では3億7118万円(同2010万円増)を計上している。事業活動支出では給料手当活動旅費、消耗品費等の圧縮を見込み、全体で3億5087万円(同1511万円減)となっている。当期収支差額は331万円の黒字

が見込まれている。全体に不確定な部分があり、5月の理事会で正式に提案される。

### 4委員会、4PTで構成

専門委員会の再編案が提示された。専門委員会制度は2010年度に当時の3委員会6部会の2段階制から4創造室8委員会制に改正されたが、それから2年を経過した時点で問題点をさらに整理し、責任体制をよりシンプルにして機動性を持たせ効率化を図るため組織再編することとした。提案された再編案は広報調査、人材育成、社会貢献・環境対策、遊技機検討の4委員会と、中土機流通、消費税検討、店外オンライン、風営法検討の4プロジェクトチーム(PT)で構成される。今後意見を集約して細部の手直しを行い、5月の理事会を経て実施したいとしている。

方は、①継続的な行事等を抱え、長期にわたり体制を必要とするものを委員会として常設し、当面の課題・具体的テーマに応じ理事会の承認を得て臨機応変に設置するものをPTとする ②各委員会・PTに担当理事(副会長を含む)1人を置くほか、委員会に委員長、PTにリーダーを、さらに必要に応じて補佐役の副委員長・サブリーダーを置く ③定員は原則として委員会15人以内、PT10人以内とする ④委員会は地域、業種のバランスに配慮し、PTは適任者でそれぞれ構成する——としている。

広報調査委員会は遊技機健全化委員会が扱っていたアンケート調査を引き継ぐほか、「のめり込み」問題も担当する。これまでの支部強化委員会での協議は支部運営会議で扱う。政策検討会議は会長、副会長、担当理事(必要により委員長の代理可)、支部長で構成する。遊技機健全化委員会の廃止で不正対策の減退を防止するため、定期的に各支部の担当者との連絡会を開く。

## 12年度予算案を提出

2012年度予算案が提出された。事業活動収入の内、減少傾向にある正会員会費収入は1億4200万円(前年度予算額より710万円減)としている。取扱主任者研修事業収入は新年度が更新時期にあたることから1億3719万円(同



理事会の冒頭、挨拶する深谷会長

今回の組織再編の基本的な考え

エッセーが407編  
絵手紙が256編に

「第2回パチンコ・パチスロ エ



## 平成24年度重点推進事項

～ 行動する日遊協 日遊協憲章・行動指針の実践 ～

### 1 パチンコ・パチスロ新時代にふさわしいビジネスモデルの創造等、安心安全な遊技環境の整備

- (1) 健全な大衆娯楽としてのパチンコ・パチスロの復興
- (2) 不正に対する断固たる対応
  - ア 一般社団法人遊技産業健全化推進機構の活動への積極的な協力
  - イ 遊技産業不正対策情報機構 (PSIO) の活用と、地域セキュリティーネットとの連携強化
- (3) 消費税問題についての研究と取組みの強化
- (4) 一般社団法人貯玉補償基金の整備充実と貯玉・再プレーシステムの活用による店外オンラインの研究

### 2 人づくり活動の推進

- (1) 店長等講習、マネジメントカレッジ等体系的な人材育成システムの充実強化
- (2) 遊技機取扱主任者の講習・試験制度の充実強化

### 3 環境問題への積極的対応

- (1) 省エネに関する意識の改革とエコホール等の対策の推進
- (2) 遊技機リサイクルの積極的推進
- (3) 里山づくり「共生の森」計画の推進
- (4) 次世代を担う青少年に対する環境問題への関心の醸成

### 4 社会貢献活動の推進と社会的評価を得るための効果的な広報活動の推進

- (1) 遊技産業に対する理解と社会的評価を高めるための広報・各種イベント活動の推進
- (2) 日遊協ボランティア派遣隊の充実強化と各種ボランティア活動の推進
- (3) 店舗施設の地域貢献の推進

### 5 組織体制の整備と活性化

- (1) 会員増強方策の積極的推進
- (2) 委員会活動の整備
- (3) 本部・支部間、支部相互間の情報交流の推進
- (4) 新公益法人制度への対応

### 6 遊技産業の各団体間の連携強化

- (1) 現行法令制度の問題点の検討と改善への取組みの強化
- (2) 団体間の各レベルの会議の充実強化

ッサー・絵手紙コンクール」の応募状況が報告された。最終的にはエッサー部門407編(一般168、業界239)、絵手紙部門256編(一般113、業界143)の計663編となった。前回の応募数はエッサー部門663編、絵手紙部門533編で、全体ではほぼ半減している。減った一因として、テーマの範囲が絞られていた点が挙げられている。

3月中の第一次選考、4月中の第二次選考で作品数を絞った後、5月

## 政策検討連絡会

新規入会申請があつた正会員2

に最終審査委員会を開いて両部門の各人賞者(最優秀賞、優秀賞、佳作等)を決定する。両部門の最優秀賞受賞者は6月7日の日遊協通常総会で表彰される予定となっている。

## メーカー、販社も参加できる 新「店長・管理職能力開発講習・試験」

第6回政策検討連絡会は3月15日、日遊協本部会議室で会長、副会長、

支部長、創造室長・副室長、委員長ら16人が出席して開かれた。店長

社(ホール)、賛助会員1社の入会を承認した。これで正会員351社(ホール115、機械70、販社120、景品10、その他36)、賛助等会員54社、計405社と団体加盟1(同友会)となった。(20ページに新規入会員)

等講習・試験の対象を、ホールの店長及びメーカー・販社等他業種の管理職に拡大させ、「店長・管理職能力開発講習・試験」と名称変更する改正案が出され承認された。直後の第6回定例理事会でも報告された。現行の店長等講習・試験は、受講者数は09年度246人、10年度220人、11年度210人(見込み)と頭打ち傾向になっている。

一方、講習テキストが昨年7月に一新され、管理能力編、マーケティング戦略編、コンプライアンス編、風営法編など6部構成で、それぞれの基礎知識から実地までが網羅された。これにより講習内容全体がホール企業以外の管理職も参加できるように充実したので、職種横断的に管理職という大きな括りでの参加を本格的に呼びかけることになった。

名称変更以外の改正では、講習時間を現行(7時間)より30分延長する。試験問題の出題方式は現行の正誤択一式が引っかけ問題と受け取られて不評なので、学習内容をよりよく理解してもらうために四択方式に改める。また、不合格者へのフォローとして、支部ごとに1回の再試験を行う。